

船舶事故等調査報告書

平成22年12月16日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第150号	
事故等種類	座州	
発生日時	平成22年6月25日 15時20分ごろ	
発生場所	千葉県市川市千葉港葛南市川灯台から真方位062° 1,500m付近 (概位 北緯35° 40.4′ 東経139° 56.9′)	
事故等調査の経過	平成22年8月10日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物船 ^{ちかわ} 千川丸、499トン	
船舶番号、船舶所有者等	132398、丸五海運有限会社	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、千葉港葛南区の市川水路を出航中、入航船と右舷を対して通過しようと、水路の東側に近寄って主機を停止し、減速して航行していたとき、平成22年6月25日15時20分ごろ船尾部船底に軽い衝撃を受けた。</p> <p>本船は、そのまま出航し、京浜港川崎区沖で錨泊して各部の点検を行ったが異常は認められず、7月17日入渠時に損傷がないことを確認した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風力 6、視界 良好</p> <p>海象：波高 約50cm、潮高 約148cm、潮汐 上げ潮の中央期</p>	
その他の事項	<p>市川水路は、広大な干潟（三番瀬）の中央部を掘り下げて可航域を作っており、水路の両側は水深1m以下の浅所となっている。</p> <p>本インシデント当時、本船の喫水は、船首約3.0m、船尾約4.1mであった。</p> <p>入航船は、市川水路の西寄りを航行中であった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、南西風が吹く状況下、千葉港葛南区の市川水路内で入航船と右舷を対して通過する際、水路の東側に接近して減速したので、左舷方に圧流され、船尾部が水路東側端の浅所に接触したものと考えられる。</p> <p>本船は、接触した場所の底質が泥であったことから、損傷を受けなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	本インシデントは、南西風が吹く状況下、本船が、千葉港葛南区の市川水路内で入航船と右舷を対して通過する際、水路の東側に接近して減速したため、左舷方に圧流され、船尾部が水路東側端の浅所に接触したことに	

	より発生したものと考えられる。
--	-----------------